

まち全体が巨大な廃棄物

グローバルウオータ・
ジャパン代表

よしむら かずなり
吉村 和就

筆者は1日から4日まで被災地を視察調査した。今回は500ポニートルにも及ぶ被災地のほんの一部調査であるが、今後の復旧・復興の参考にして頂きたい。

1、被災地の状況

宮城県気仙沼地区
道の両側にはがれきがうず高く積み、潰された自家用車が散乱している。テレビやマスコミ報道では知り得ないことは、悪臭と砂じんの激しさである。

約5万トの水産物が流出したと言われている。津波からの過問、腐敗が



気仙沼終末処理場



壊滅した陸前高田市

壊滅的被害の

気仙沼終末処理場

気仙沼市の最も低い地域にある終末処理場に向かう。処理場の周りは陥没し、内部は徹底的に破壊されている。天井は落ち、制御盤は泥をかぶり、ゲート類はすべて破壊されている。簡単に言

うと水槽の上部の突起はすべてはぎ取られてい

る。同敷地内にある川口

ポンプ場の建屋は津波の

勢いだらうか、完全に壁

が破壊されている。ぼつ

気槽の上から岸壁方向を

見ると、陸に打ち上げら

れたマグロ漁船や津波で

倒壊炎上した重油タンク

群が見える、漏れた重油

が気仙沼の町や船を焼き

尽くした。

気仙沼終末処理場は1

984年3月から処理を

開始し、嫌気好気式活性

汚泥法(処理能力980

0立方メートル)を採用し

最近では砂ろ過、炭化炉ま

で備えた近代的な処理場

る。町民約1万8千人の

うち375人が死亡、半

数の約9千人が行方不明

(4月4日時点)。

役場が使用できないた

め、水に対する災害対策

本部は旭洋設備工業(本

社・仙台市若葉区)の南

三陸事業所内に設置され

ており、ここで応援給水

が行われていた。

陸前高田市

高台から陸前高田市を

置かれていた。陸前高田

市では、死者1094

人、不明者約1300

人、住宅約3600棟が

全壊、約1万4千人が避

難(4月4日時点)して

おり、被害は甚大であ

る。現在地での復旧は不

可能と思われる。

2、がれきの処理は

どうするか?

すべての被災地はがれ

きの山である。宮城県の

試算によれば、県内廃棄

物量の23年分(1800

万ト)とのことである

が、これには自動車や船

舶、土砂などは含まれて

いない。環境省が定めた

災害廃棄物の処理は、阪

神・淡路大震災の教訓を

経て改訂され、廃棄物を

分別・リサイクルし減容

化することを明記してい

るが、この被災現場に立

つと途方に暮れる。

ド、最終処分地など現地

には期待できない。また

通常のがれきと異なりま

ち全体が巨大な廃棄物と

なっており、居住系、事

務所、加工場、造船所、

かきのイカダ、漁船、自

家用車、保冷車、家電、

鉄骨、泥、砂、木材、コ

ンクリートなどが混在し

たまま放置されている。

しかも海水を被っている

ので燃やすとダイオキシ

ンが発生する恐れがあ

り、リサイクル品でも品

位が下がるであろう。

県外に搬出するにして

も道路が狭く、また法律

的な問題が大きく横たわ

っている。廃棄物処理

法、河川法、道路法、港

湾法、公有水面埋立法、

アセスメント法の弾力的

な運用を図るとともに、

早急に処理法を確立すべ

きであろう。日本国の英

法の弾力運用で早急処理を

(当初建設費94億7千万円)であったが、復旧はかなりの困難と思われる。本吉地区の浄水場の内部もすべて破壊されていた。

南三陸町

南三陸町は、海に面した入江の村落ほとんどが流され、土台しか残っていない壊滅状態であ

る。町民約1万8千人のうち375人が死亡、半数の約9千人が行方不明(4月4日時点)。

南三陸町

望むと声が出ない。頑丈な鉄筋コンクリート造りの建物がかろうじて残されているだけで、ほとんどが津波で流されている。今までの被災地は多

少ともがれきが残っているが、陸前高田市ではがれきさえも津波がさらっていったようだ。

南三陸町

高台にある学校給食センターに災害対策本部がい、中継基地、処理ヤ

三陸という特殊な地形でとにかくスペースがない、中継基地、処理ヤ